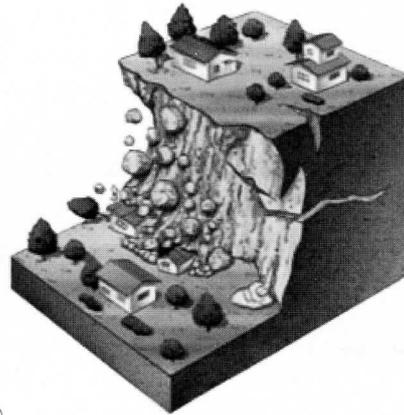
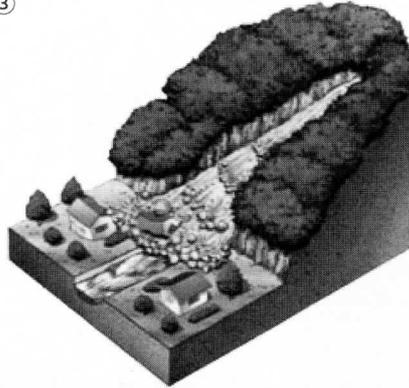


②



①

③



①がけ崩れ

急傾斜地で斜面が瞬時に崩れ落ちます。

②地すべり

ゆるやかな斜面で地盤がゆっくりと動き出します。

③土石流

水と一緒に土砂が下流へ押し流されます。

される現象が土石流です。破壊力が大きく、また流れる速度も速い(時速20〜40km)ため、人家や田畑を押し流し、大きな被害をもたらします(左図③参照)。急勾配の溪流や、上流が崩壊などで荒れている溪流では注意が必要です。また、過去に土石流が発生した溪流は特に注意が必要です。

連絡先

市役所 ☎(43) 11111
市消防本部 ☎(43) 11119

- 前兆現象
- ・山鳴りがする。
- ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- ・川の水が急に濁ったり、流木が混ざり始める。
- ・腐った土のにおいがする。



山口県防府市で発生した土砂災害

(写真出典：株式会社パスコ http://www.pasco.co.jp/disaster_info/090721/)

最近の豪雨による土砂災害例

記憶に新しいところでは、先月、西日本で起きた豪雨による被害や、昨年の7月21日、山口県防府市において発生した土石流の被害ではないでしょうか。防府市の例は、特別養護老人ホームに押し寄せた土石流が入居者を直撃し、多くの犠牲者が出た悲惨な災害でした。一方、県内では、昭和41年9月の台風26号の影響で、足和田村(現・富士河口湖町)の根場地区と西湖地区で土石流が発生し、死者・行方不明者94名という大惨事がありました。それ以降、ここ数十年、人命にかかわる大きな土砂災害は起きていません。

土砂災害と雨量

土砂災害の発生と雨量には密接な関係があります。

- 前から降って地中にしみ込んだ水の量が多いほど、土砂災害の発生確率とその規模が高まります。
- 短時間に集中して降る雨の方が土砂災害が発生しやすく、規模も大きくなります。
- 雨が止んで晴れ上がってから2〜3時間後に災害が発生することもあります。

また、市や消防団も早めに避難するよう対策を講じますが、住民の皆さんも自らの判断で安全な場所に避難するなど、早めの避難を心がけてください。

本市では、明治以降、台風などにより家屋の倒壊や堤防の決壊などの被害は度々あったものの、人命にかかわる被害は、大正14年以降記録されていません。しかし、今年西日本で起こった豪雨による土砂災害を目の当たりにすると、勾配が急な山と沢の多い地形からなる本市では、とても他人ごととは思えません。

これからが本格的な台風シーズンです。風への対策はもちろんですが、近年の豪雨による被害の大きさから、その対策には特に万全を期すことが大切です。がけ崩れが起こりやすい地区や沢のすそ野にお住まいの方は「前兆現象」に十分注意し、事前の備えなどを検討しておきましょう。